

近郊版

誰でも自由に使える「シェア冷蔵庫」を通して、不要になった食品を生かしたい人と必要とする人をつなぐ取り組みが、春日井市小野町4のカフェ「ワンぽてい」で一月から始まった。フードロス削減と生活が苦しい人の支援に、多くの人が気軽に関わることができると期待されている。関係者は「遠慮せずにご利用してほしい」と呼びかける。(磯嶋康平)

誰でもどうぞ

シェア冷蔵庫

カフェの入り口のすぐ脇に、幅七十センチ、高さは、入りある冷蔵ショーケースには、きりなかつた野菜なども置ける。野菜ジュース、缶詰、菓子類などが所狭しと並んでいる。「まちかど冷蔵庫」と名付けたショーケースは高さ一

不要な食品を必要な人に



寄せられた食品が並び、ショーケースを紹介する小栗代表と藤井さん。いずれも春日井市小野町4のワンぽていにて

春日井のカフェ支援続々 余剰ケース活用



「まちかど冷蔵庫」があるワンぽてい

と声かけて持っていくつもりです。同店の小栗加奈代表(40)が話す。ショーケースには家庭などで不要になり持ち寄られた食品品を入れるおき、訪れた人がほしいものを自由に持っていく仕組みだ。四日から始めたばかりだが、「もらっていきってくれる人が増えてきた」と小栗さんは喜ぶ。

店には以前から余っているショーケースがあり活用の機会を考えていたものの、なかなか良いアイデアが浮かばなかった。小栗さんがふと思いついたのが、半年ほど前に見たテレビ。「フランスのとある商店街の通路に、冷蔵庫が置かれていたんです。中にはいろいろな人が持ち寄った食材が入っていて、通りかかると冷蔵庫を開け、自由に持ち帰っていました」

それがヒントになり、フードバンク・フードドライブ活動に取り組み市内の就労移行

支援事業所「ふらっぶ」に相談。活動開始に向け、具体的な利用の仕組みなどを考えた。

「ふらっぶ」の藤井貴之所長(30)によると、生活に困っていても、支援施設に頼ったり生活保護を受給したりして「困窮者」とくられることに抵抗を感じる人は少なくない。まちかど冷蔵庫はフードロス削減に協力したいすべての人の利用を想定しており、藤井さんは「困窮者支援とつながり遠慮してしまつても多いが、この取り組みなら積極的に利用してもらえるのでは」と期待する。

ただ小栗さんによると、「無料」「自由」という点で遠慮する人もいるといい、「気持ちを入れたい人のために小さな貯金箱も置いた。小栗さんは「持っていくってくれる」と自身がフードロスの削減につながる。社会貢献と思ってもらえれば」と呼びかける。

寄せられた食材には、神奈川県から送られてきた規格外のダイコンもある。藤井さんは「ここまで届くということ、それだけこういった場が少ない証拠。冷蔵庫と場所さえあればできる取り組みなので、広げていければ」と話した。

シェア冷蔵庫でフードロス削減を目指す取り組みは、日進市でも同市を拠点とするベンチャー企業が進めており、地元農家の規格外の野菜を置いている。